

# 後始末を担う「静脈産業」として 持続可能な循環型社会を実現したい

4分でわかる  
ドキュメント映像もチェック!



石川県金沢市で自動車部品のリサイクル業を営む会宝産業(株)。自動車リサイクル法の施行を機に徹底して環境配慮に取り組み、その姿勢をSDGsという形で外部に発信したことで評価が高まった。社員の誇りや働きがいと経営に与える影響などについて、近藤高行社長にお聞きした。

## 世界約90カ国に自動車部品を輸出

一度モノをつくったら、使い終わったり壊れたりした製品を適切な方法で廃棄・再利用するなど「後始末」が必要となる。毎年製造される膨大な数の自動車はいずれ廃車となるが、この廃車を解体し、部品として販売あるいは素材として再資源化しているのが会宝産業(株)だ。

同社は、ディーラーや個人オーナーから買い取った廃車を解体し、エンジンなど部品として使えるものを選別した上で販売している。販売先は国内もあるが、7割以上がロシアや中東諸国など海外90カ国の自動車部品卸会社。この海外販路のネットワークを持っていることが、同社の大きな強みとなっている。

「日本人の感覚だと約10年で10万キロも乗れば買い替えようとする人が多いですが、海外では20年、30年使うのは当たり前。部品を交換すれば乗り続けられるわけですから、そこに自動車部品の大きな需要があります」

こう語るのは2代目の近藤高行社長。海外販路の強みは、そのまま仕入れ力にも直結するという。つまり、同業者は廃車を引き取ってもスクラップにするしかないためどうしても買取価格は安価になるが、同社は海外への販路があり商品として売れるので査定額を高くできる。だから良質な廃車を仕入れやすいのだ。

## 法施行を機に環境に配慮した経営に取り組む

同社は2018年12月、SDGsの達成に資する優れた取り組みを行う企業・団体を国として表彰する「ジャパンSDGsアワード」外務大臣賞(総理大臣賞に次ぐ2番目)を受賞した。

同社が環境に配慮した経営をはじめたのは、先代で現会長の近藤典彦氏が代表を務めていた2005年。同年に「自動車リサイクル法」が施行されたため、関連事業者にはフロンガスやエアバッグの回収、基準に従った適切な解体などが義務付けられた。



左:解体される廃車。販売される部品と再資源化される素材に分別される

上:きれいに清掃された倉庫には出荷を待つエンジンが並べられている

ちょうど典彦氏に初孫が生まれた時期だったこともあり「孫の世代の未来のためにも、環境問題に真剣に取り組もう」と決意した。

それまでやらなくてもよかった業務が加わることに對し不満を漏らす社員もいたというが、地道にその重要性を伝えることで意識が変わっていったという。

「SDGs目標12に『つくる責任 つかう責任』とありますが、本来つかって終わりではなく、誰かが適切に処理しないと資源は循環しません。人間の血流に例えると、メーカーが『動脈産業』で当社のようなリサイクル業者が『静脈産業』です。メーカーにつくる責任があるように、後始末は静脈産業としての当社の責任であり、海外に販売したあとの部品もきちんと処理されているかを確認しています」(近藤社長)

## 離職率が改善し新卒採用でも好影響

このように、同社のSDGsへの取り組みは決してジャパンSDGsアワードのような賞が目的ではなく、同社に通底する環境配慮の理念が結実したものだ。

その証拠に、同賞の応募を提案したのは2年目の新入社員で、当初はそのことを近藤社長も知らなかったという。その社員は、社会的に意義のある取り組みをしていると知り同社に入ったものの、そのことをもっと外部にアピールしたほうがよいと感じていたのだ。

「最初、私は賞に応募していたことを知らず勝手に選考が進んでいたのが驚きました(笑)。もちろん受賞したからといってもやるべきことは何も変わらないのですが、最大の変化は、社員が取引先など外部の方から受賞についてほめられるようになったことです。社員もそうした周囲の反応を体感し、それまで以上にやりがいと誇りをもって仕事に取り組んでくれるようになりました。私の一番の自慢は社員たちです」

この社員の力をさらに発揮してもらうために、昨年社員を中心とした14にのぼる社内プロジェクトを立ち上げた。10年前には約30%だった離職率も5%に低下し、新卒採用面でも応募者が増えるなど着実に好影響が出ているという。



第2回「ジャパンSDGsアワード」受賞式で表彰状を受け取った近藤典彦会長(右)と近藤社長

## 「静脈産業」の輪を世界中に広めたい

同社の創業は1985年で、近藤社長が社長に就任したのは2015年。承継以来同社の業績は好調で、売上高は約25億円、利益もコンスタントに獲得している。

中小企業がSDGsに取り組む意義については、自社の事業が17の目標のどれかには関連するはずなので、まずはやってみることが大切だと語る。「会社を成長させること、そして社員の能力を引き上げ最大限の力を発揮させることが社長の仕事です。それもSDGsの目標8『働きがいも経済成長も』にあたります。世界中に『静脈産業』の輪を広めることが、今後の目標です」

e

### 【会宝産業(株)のSDGs経営】

- ① 「自動車リサイクル法」施行を機に環境問題に配慮した経営にシフト
- ② 社員の能力を発揮する環境を整える
- ③ SDGs関連の賞が社員の誇りにつながる

会宝産業株式会社

石川県金沢市東蚊爪町1-25

TEL : 076-237-5133

HPは二次元コードより[<https://kaihosangyo.jp/>]



代表取締役社長 近藤高行(こんどう・たかゆき)

高校卒業後、海外留学を経て会宝産業(株)に入社。2015年代表取締役社長に就任。社内プロジェクトの立ち上げなど社員が活躍できる環境整備に取り組む。